6　臨床検査に関するもの

演題番号26	胃粘液を材料としたヘリコバクター・ピロリ検出の検討
発　表　者	公立みつぎ総合病院　主任臨床検査技師・臨床検査技師　髙瀬　圭一
共同発表者	奥　成美，山内　誠，脇本　旭，大谷　博，秋山　隆，春間　賢

Helicobacter.pylori（以下H.pylori）感染は，胃炎や消化性潰瘍，胃癌の原因となる。感染診断の中で迅速ウレアーゼ法（以下RUT）は簡便かつ迅速だが，胃生検材料を必要とする。今回，胃粘液を材料としたRUTの有用性と，粘液鏡検で診断が可能か検討した。

上部内視鏡検査でH.pylori感染が疑われた342症例を対象に，綿球で胃粘液を採取しRUTを施行。粘液鏡検は生検鉗子で粘液層を擦過，ギムザ染色で標本を作製した。

病理生検を基準に，H.pylori陽性242症例中RUT陽性235症例，陰性7症例，H.pylori陰性100症例中RUT陽性15症例，陰性85症例で診断一致率は93.6％であった。

綿球を用いたRUTは実臨床で使用できるH.pylori感染診断である。粘液鏡検は，H.pylori以外の感染診断に応用できる可能性があるが検討が必要である。

MEMO